

## ドキュメントインポートプロセッサ(DIP)

### ドキュメントインポートプロセッサとは

OnBase ドキュメントインポートプロセッサ(DIP)はドキュメントイメージキャプチャリングシステムと共に使用できる最適なモジュールです。DIPを使用することにより、ユーザーは素早く簡単に大量のファイルと関連するインデックスファイルをOnBaseに直接アーカイブできます。DIPは、サードパーティアプリケーションにより作成されたドキュメントとイメージをアーカイブするようにデザインされており、レガシーシステムから大量のバックアップファイルの転換ができます。

### どのように機能するか

DIP ファイルは、ローカルハードドライブ機器、UNC 対応のネットワークシェア、またはメインフレームやウェブサイトの FTP から OnBase にインポートできます。DIP プロセスが設定されると、OnBase クライアントからドキュメントを参照しながら DIP プロセスを実行できます。OnBase は柔軟なプロセス設定を提供し、ユーザーはフィールドのデリミタとセパレータを設定できます。プロセスのグループ化、スケジュール化が可能で、またオンデマンドでプロセスを実行することもできます。

プロセスは OnBase クライアントで実行します。ユーザーは DIP キューダイアログボックスにある DIP プロセスをすべて参照できます。プロセスジョブは繰り返し実行するようにスケジュールもできれば、一度だけプロセスするように設定することもできます。ユーザーは一度だけプロセスするように選択もできるし、一連の DIP プロセスをスケジュールするプロセスジョブを作成し稼働させることも可能です。

プロセスの間、ファイルはインデックスされ圧縮されます。一旦プロセスされると、バッチは「コミット待機中」キューに移動します。そこで、ドキュメントを閲覧したり、コミットしたり、ページしたり、日付を付けたり、承認レポートを検証したり、インデックス情報を抽出したり、またはリストレポートを作成したりできます。このキューにあるドキュメントは、権限のあるユーザーであれば閲覧できます。バッチは OCR を実行し全文検索でき、ワークフローに送ることもできます。さらに、ドキュメントのバッチはスキャンキューにも送付され、手動でドキュメントを見直したりインデックス作業を追加で実行したりできます。承認レポートが各 DIP プロセスを実行するごとに作成されます。承認レポートは、プロセスされたドキュメントの数、認識されなかったドキュメントの数、プロセスにかかった時間、および発生したエラーや警告といった情報を提供します。

### だれが利用できるか

サードパーティアプリケーションまたはレガシードキュメントイメージングシステムから作成された大量のボリュームのドキュメントやイメージをアーカイブする必要がある企業であればどの業種にも活用できます。ドキュメントやイメージおよび関連するキーワード値は簡単に OnBase にインポートされ、OnBase クライアントアプリケーションを使用して即座に検索が可能になります。

### 技術的特長

- DIP プロセスに使用するファイルを取得するのに複数のオプションを提供する (ローカルハードドライブ、UNC ネットワークシェア、FTP)
- 複数のファイルタイプをプロセス
- OnBase ワークフローとシームレスに統合し、電子ドキュメントを閲覧できる
- プロセスはグループ化、スケジュール、オンデマンドで実行可能
- 柔軟にプロセス設定が可能で、入力ファイルフォーマットに一致するプロセスを設定できる
- アドバンスド DIP モジュールは、マルチスレッドプロセスが可能でプロセススピードを最大限に引き上げる

### ビジネス利点

- サードパーティアプリケーションから作成されたドキュメントをプログラミングや統合の費用をかけずにインポート/保管できる
- バックアップファイル転換の効率をあげる
- 自動インデックスが可能で、コストを抑え、迅速で正確なドキュメント検索が行える

### システム要件

- Windows 98, NT, 2000 または XP
- SQL サーバ 7 以上
- Oracle 8: v 8.0.5 以上
- Oracle 8i: v 8.1.7.2 以上
- Oracle 9, 9i
- Sybase SQL サーバ v11.5
- Sybase SQL Anywhere 5.5.04, 7.0.0 から 7.0.3 および 8.0 (No 6.0.X releases)